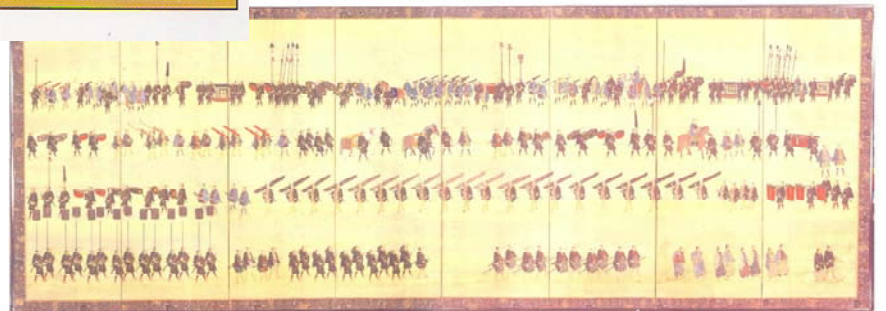
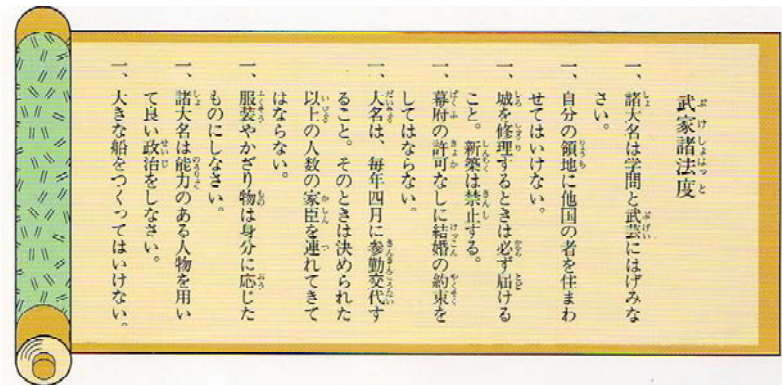


事実を丹念に調べ考えを確かにする
社会科学学習指導法の研究

—こだわりある課題づくりと考えを表現する活動の工夫—

第6学年「徳川家光と江戸幕府の政治」



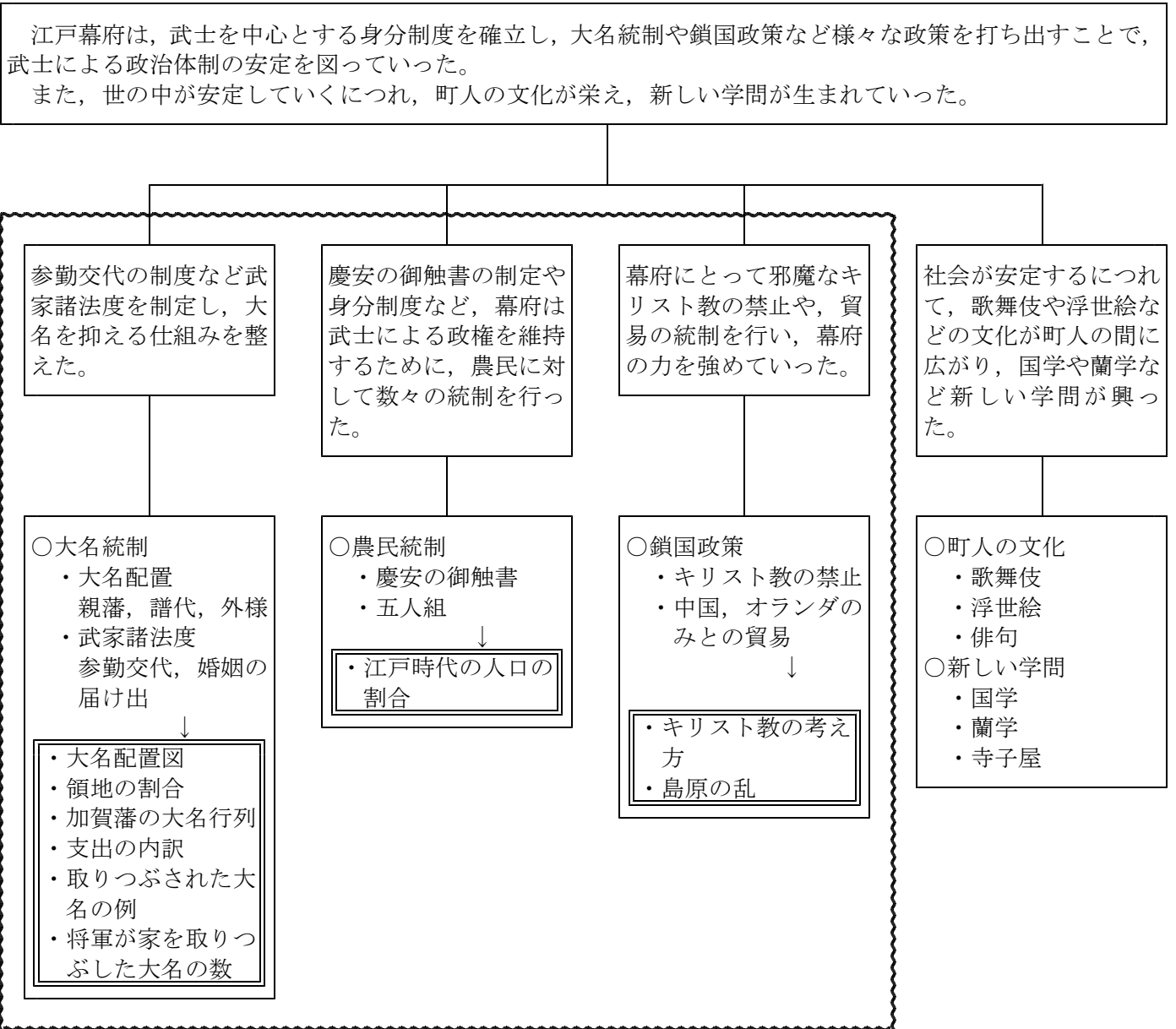
社会科学学習指導案

1, 単元名 ～徳川家光と江戸幕府の政治～

2, 目標

- 江戸時代や江戸幕府の政治に興味を持ち、意欲的に学習を進めていくことができる。
- 江戸幕府が、なぜ、約260年もの間戦のない世の中にしていくことができたのか、幕府の諸政策から考えることができる。
- 調べたことをもとに自分の考えをつくり、わかりやすく表現していくことができる。
- 武士を中心とする身分制度が確立し、江戸幕府の政治が安定したことを理解することができる。

3, 単元構成図



4, テーマから見た教材の価値

本教材は、江戸幕府の諸政策を調べその意味を考えることを通して、「武士による政治が安定したこと」を捉えることをねらいとしている。教材を構成する事実には下記のようなものがある。

	数量的なもの	時間的なもの	資料の読み取りから
大名に対して	・大名行列の人数と費用	・参勤交代における江戸までの	・取りつぶされた大名の理由

	・支出の内訳	日数	・大名配置図
農民に対して	・年貢の割合 ・人口の割合 ・島原の乱の人数		・五人組 ・一つ一つの決まりの意味
外国との繋がり	・島原の乱の人数		・キリスト教の考え方 ・出島での貿易と幕府の所領

これらの事実には、大名行列の人数のように数量に関するもの、参勤交代にかかる日数のように時間に関するものがある。また、数量ではないが、キリスト教の考え方のように一つの資料を読み取ったり、参勤交代にかかる日数と大名配置図のように、二つの資料を関連させながら読み取っていくことでその意味を捉えていくことができるものがある。

このように、数量に着目したり、事実と事実の関連に着目したりしながら丹念に調べていくことで、自分の考えを確かにし、単元のねらいにせまることができる教材である。

5. 研究内容（手だて）

（1）こだわりある課題の設定と学習問題の設定

【こだわりある課題】

ぼくは、江戸幕府が長く戦のない世の中にすることができたわけは、参勤交代をさせることで武士（大名）達を抑えたからだと思います。それは、江戸と自分の領地とを行ったり来たりさせたら、逆らえなくなると思うからです。

でも、参勤交代について詳しいことが分からないので、

- ・どのくらいお金がかかったのか
- ・どのくらいの日数がかかったのか

・大名達のお金の使い方について調べていきたいと思っています。

私は、江戸幕府が長く戦のない世の中にすることができたのは、慶安の御触書を出して農民たちを抑えたからではないかと思っています。それは、秀吉も農民たちが反抗できないように工夫をしていたし、人口の割合が最も多いからです。

でも、どのくらい年貢を納めていたのか、なぜこのきまりが必要なのか分からないので、

- ・年貢の量
- ・このきまりを破ったらどうなるのか

について調べていきたいと思っています。

ぼくは、江戸幕府が長く戦のない世の中にすることができたのは、外国から方法を学んだからだと思います。それは、聖徳太子も、中国から政治の仕組みなどを学んで世の中を治めていったし、信長は南蛮貿易でもうけたからです。

でも、実際には、キリスト教の禁止や鎖国をしていました。外国とのつながりは、世の中を安定させるために大切なことだと思うので、

- ・キリスト教の考え方
- ・なぜ、長崎だけで貿易をしたのか

について調べていきたいです。

- このこだわりある課題の内容は、「江戸幕府が長く戦のない世の中にするには、幕府に逆らうことができないようにすればいい」という考え方がもとになっており、そうするためには、「大名（武士）・農民」にどんなことをしていったのか、「外国との繋がり」はどのようなものだったのかについて調べていくことになる。調べていく中で、金額や日数などの具体的な数字や一つ一つのきまりの意味について考えていくことで、をとにして、「経済面」から幕府に逆らうことができないようにしていったに気付かせることができ、「武士による政治が安定したこと」についてとらえることができると考える。

【予想】

武家諸法度を定めて、逆らうことができないようにした。

慶安の御触書を定めて定めて、逆らうことができないようにした。

鎖国をすることで、貿易の利益を独り占めにした。

- この三つの予想は、“武家諸法度・慶安の御触書・鎖国政策”に関する資料の一部から考えられるものである。どれも具体的な根拠が乏しく、学習問題にしっかりと繋がっていくものとは言い難い。武家諸法度や慶安の御触書を破るとどうなるのか、なぜ色々な決まりが必要なのかについての交流を行っていくことで、経済的な面に関する部分や一つ一つの決まりの意味について、自分の予想の曖昧さに気付くことができると考える。

【学習問題】

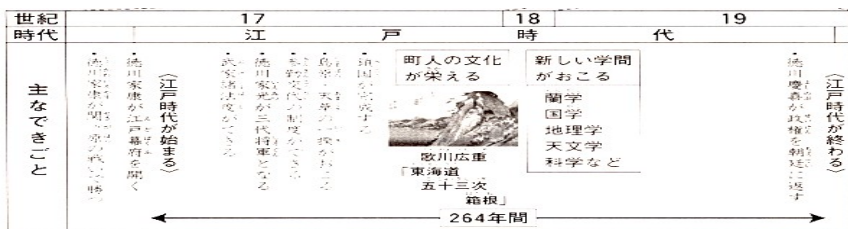
江戸幕府は、なぜ、長い間戦のない世の中にすることができたのだろう。

○ 江戸時代の世の中の様子から、江戸時代には、「世の中がにぎわっている・人々が楽しそう」などというイメージをもっている。そこで、「そんな世の中にするためには何が一番大切かな。」という発問を行い、「戦がないこと」という考えを持たせていく。次に、「戦をなくすためにはどうすればよいのかについて考えさせ」、「幕府に逆らうことができないようにすればいい」という考えを持たせていく。この考えと今までの学習の振り返りを通して、「大名（武士）立ちを逆らえないようにしたのではないか・農民達を逆らえないようにしたのではないか・外国から方法を学んだのではないか」という予想を立てることができる。

(2) 予想作成における知識の分析と資料の活用

①知識の分析

○年表



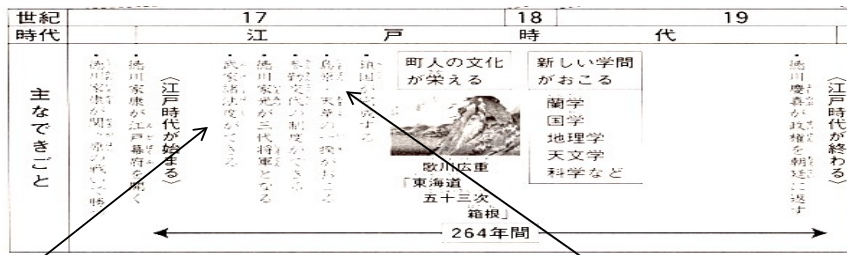
○資料から分かること

	数量的なもの	時間的なもの	資料の読み取りから
大名に対して	<ul style="list-style-type: none"> 藩の大きさによって人数が決まっていた 支出は大きな藩になればなるほど多くなる 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸から遠いほど日数がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> 他の大名への見せしめとしての効果 外様大名を遠くに配置
農民に対して	<ul style="list-style-type: none"> 全人口の85%を占めていた 		<ul style="list-style-type: none"> 連帯責任にすることでお互いを監視させる 農業に専念させることで武士の生活の基盤を固める
外国との繋がり	<ul style="list-style-type: none"> 約4万人のキリスト教信者による一揆 		<ul style="list-style-type: none"> 「神の前には人間は皆平等である」という考え方は幕府にとっては邪魔なもの 直轄地の長崎で貿易を行うことで利益を独占

○ “大名”については、上記の資料を通して、各大名を経済的に力を弱めていったことを読み取ることができる。“農民”については、農業に専念させることで一揆を防ぐとともに、年貢を確実に納めさせることで、武士のくらしの安定を図ったことを読み取ることができる。“外国とのつながり”については、幕府にとって邪魔な考えを排除したり、外国との貿易の利益を独占したりすることで、幕府自身の力を強めていったことを読み取ることができる。

②資料の活用

？どうやって大名や農民を抑えたのだろうか。また、外国とどのようにつながったのだろうか。



・武家諸法度 (大名に対するきまり)

・参勤交代 (大名へのきまりの一つ)

武家諸法度

一、幕府を尊重すること、必ずしうしはしない。
一、幕府の許可なしに、幕府の領地を出入りしてはならない。
一、大名は、毎年四月に参勤交代すること。そのときは、決りかたに参勤交代の費用をもち、人馬以上の費用を連れてはならない。

参勤交代

○自分の領地と江戸の自分の居館とを交代に往いていくこと。



大名への厳しいきまりを作って、逆らえないようにしたと思う。

・慶安の御触書、藩から出された御触書 (農民への取り決め)

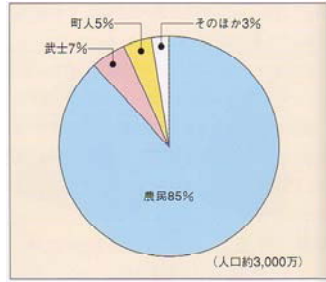
・人口の割合

慶安の御触書

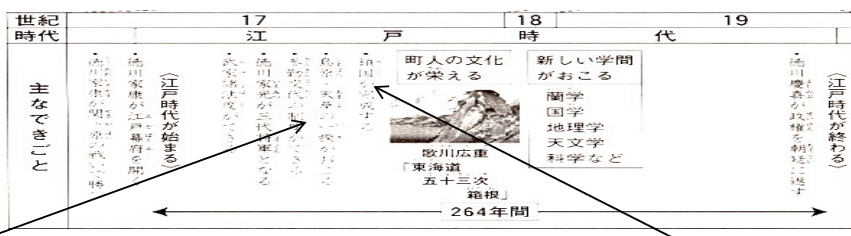
一、年貢さえ納めれば、農民はなものはない。子孫にもこえて、一生懸命働きなさい。
一、朝は早く起きて草をかり、畑を耕し、夜は調や俵を纏ごし、何事も気を抜かないをしなさい。

告

一、今年も年貢を集める。
一、米が取れなかった者の分は、他の者が出しておくべし。
一、年貢が出せなかった村は、重い処罰を与える。



農民への厳しいきまりを作って、逆らえないようにしたと思う。



・キリスト教信者の農民を含む約4万人が、厳しい年貢の取り立てやキリスト教の取り締まりに反対して起こした一揆

鎖国令

○外国へ日本の船を行かせることを禁止する。
○日本人を外国へ行かせることを禁止する。
○外国へ住んでいる日本人は、日本へ帰ってきてはならない。
○キリスト教を広めようとしていた者を懲らした者にはほうびを与える。(広めた者は罰を受けた)

外国との貿易は、オランダと中国(清)だけを相手とし、長崎だけで行われた。

キリスト教信者の力を抑えたり、外国との貿易でお金を儲けていったから

③ 予想の曖昧さを浮き彫りにする資料や質問の工夫

(学習問題との繋がりについての質問)

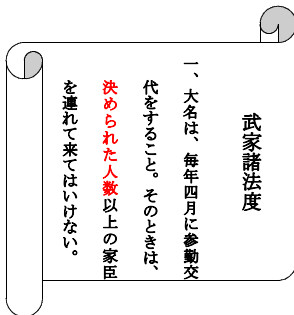
- ・ 武家諸法度を決めると、なぜ世の中が長く安定するのか。
- ・ 慶安の御触書を出すと、なぜ世の中が長く安定するのか。
- ・ 鎖国をすると、なぜ世の中が長く安定するのか。

(曖昧さを浮き彫りにしにこだわりある課題をつくるための質問)

- ・ 武家諸法度を破るとどうなる
- ・ どうして大きな船を造ってはいけないのか
- ・ 参勤交代には何人くらいいるのか、お金はどのくらいかかるのか、日にちはどのくらいかかるのか
- ・ 農民は、どのくらいの年貢を納めていたのか
- ・ 御触書を破るとどうなったのか
- ・ なぜ、キリスト教を禁止するのか
- ・ どうして長崎だけで貿易をしたのか

(提示する資料)

○ 武家諸法度の一部



「決められた人数」の部分に着目させ、

- ・ どのくらいの人数なのか
- ・ どのくらいの金額なのか
- ・ どのくらいの日数がかかるのか

というような、細かい部分に焦点化させていく。

○ 鍋島藩の支出の内訳



参勤交代にかかる費用が、どのくらい藩の財政に響く者だったかを捉えさせる。

○ 藩が出した御触書の一部

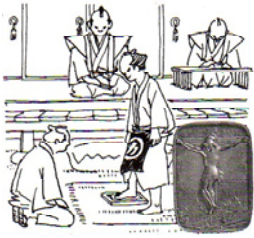


「今年も年貢を集める」の部分に着目させ、

- ・ どのくらいの量が年貢なのか

というような細かい部分に着目させていく

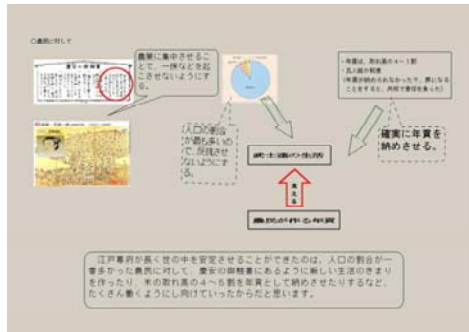
○絵踏み



「なぜこのようなことをするのか」について考えさせ、
 ・なぜキリスト教をここまで取り締まったのか
 ということに着目させていく

(3) 考えを表現する活動の工夫

- ①自分の考えをつくる場面での表現する活動の工夫
 - ・今までの学習を振り返りながらどんな表現方法があるのかについて話し合う。
- ②考えを練り上げていく場面での表現する活動の工夫
 - ・表現物をもとに、表現内容や方法について話し合う。
 - ・全体交流での表現の内容や方法について話し合う。



6, 学習計画
 〈学習の流れ〉

〈つかむ段階での手だて〉
 〈手だて I〉

1, 江戸時代の町の様子や学問について調べる。

- ①江戸の町の様子について調べる
 - 歌舞伎の様子
 - 大坂の様子
 - 商売の様子
- ②学問について調べる。
 - 蘭学と国学
 - 医学, 天文学, 地理学

↓
“江戸時代は賑やか・人々が活発”

- ③他の時代との比較をする。
 - 大きな戦がない
 - 人々のくらしが安定している
 - 約260年も続いている

↓
“江戸時代は長く安定していた”

学習問題

江戸幕府は、なぜ、長い間戦のない世の中にする事ができたのだろう。

2, 予想を話し合い, 学習計画を立てる。

- ①既習内容を振り返り予想を立てる。
 - 家光の言葉から
 - ・すごい自信
 - ・逆らえないようにしているのではないか

[学習問題をつくるために]

- 時代背景をふくらすために
 - ・歌舞伎の様子, 大阪の町の様子, 商売の様子の絵を提示し, “活気があったこと, 栄えてたこと”を捉えさせる。
 - ・色々な学問が興ったことを調べ, 世の中が安していたことを捉えさせる。
- 学習問題をつくるために
 - ・他の時代の様子と比較させ, その違いから学習問題をつくっていく。

〈手だて I〉

[こだわりある予想を立てさせるために]

- 予想を立てさせるために
 - ・家光の言葉を提示し, 意味を考えさせる。
 - ・信長や秀吉が行った政策を振り返り, 参考にさ

- 信長や秀吉の政策の振り返りと比較
 - ・ 武士（大名）達をおさえたのではないか
 - ・ 農民達をおさえたのではないか

- 聖徳太子との比較
 - ・ 外国から色々学んだのではないか

- ②予想の話し合いⅠを行う。
- どうすれば武士（大名）達をおさえることができるだろう
 - どうすれば農民達をおさえることができるだろう
 - 外国からどんなことを学んだんだろう

- ↓
- 年表からつながりそうな出来事を見つける
武家諸法度…大名に対する取り決め
参勤交代…大名は国元と江戸を1年ごとに住み分ける
慶安の御触書…農民に対する取り決め
鎖国…外国との交流を中国とオランダのみにする
キリスト教の禁止

③予想の話し合いⅡを行う。

—〈手だてⅠ・Ⅱ〉—

①質問

- 武家諸法度を定めるとなぜ武士（大名）達を抑えられるのか
- 武家諸法度を破るとどうなるのか
- 参勤交代の費用はどのくらいかかるのか
- どのくらいの年貢を納めていたのか
- 農民を抑えたらなぜ世の中が安定するのか
- なぜキリスト教を禁止したのか
- 鎖国をすると外国の文化が入ってこなくなるのではないか

予想一覧表をもとに質問を考えさせる
※質問内容を事前にチェックしておく

②資料提示

- 人数が決められている
- どのくらいの人数や金額
- 藩からの御触書の一部
 - ・ 決められた量を徴収
 - ・ 守れなかったら思い罰
- 絵踏みの様子
 - ・ キリスト教信者の確認

分からない部分があるぞ

武士（大名）への政策

農民への政策

諸外国とのつながり

ぼくは、江戸幕府が長く戦のない世の中にするのができたわけは、参勤交代をさせることで武士（大名）達を抑えたからだと思います。それは、江戸と自分の領地とを行ったり来たりさせたら、逆らえなくなると思うからです。でも、参勤交代について詳しいことが分からないので、

- ・ どのくらいお金がかかったのか
- ・ どのくらいの日数がかかったのか
- ・ 大名達のお金の使い方

について調べていきたいと思っています。

私は、江戸幕府が長く戦のない世の中にするのができたのは、慶安の御触書を出して農民たちを抑えたからではないかと思っています。それは、秀吉も農民たちが反抗できないように工夫をしていたし、人口の割合が最も多いからです。でも、どのくらい年貢を納めていたのか、なぜこのきまりが必要なのか分からないので、

- ・ 年貢の量
- ・ このきまりを破ったらどうなるのか

について調べていきたいと思っています。

ぼくは、江戸幕府が長く戦のない世の中にするのができたのは、外国から方法を学んだからだだと思います。それは、聖徳太子も、中国から政治の仕組みなどを学んで世の中を治めていったし、信長は南蛮貿易でもうけたからです。でも、実際には、キリスト教の禁止や鎖国をしていました。外国とのつながりは、世の中を安定させるために大切なことだと思うので、

- ・ キリスト教の考え方
- ・ なぜ長崎だけで貿易を行ったのか

について調べていきたいです。

- せる。
- ・ 今までに学習した人物の政策を振り返らせ、参考にさせる。
- ・ 予想の立て方の話し合い
- 具体的な予想にするために
 - ・ 予想の交流Ⅰの設定
 - ・ 予想を具体的にするための年表の提示〔根拠の曖昧さを認識させるために〕
- こだわりある課題にするために
 - ・ 予想の交流Ⅱの設定
低位の予想→高位の予想へと話し合う（計画的に）
 - ・ 根拠の曖昧さに気付くための資料（絵やグラフ等）の提示

—〈手だてⅡ〉—

〔考えの曖昧さを表現する活動の工夫〕

- 分かりやすく伝えさせるために
 - ・ 予想の根拠となった事実を明確にさせる
 - ・ 考えを絵や図等で示し発表させる（可能であれば、児童自作の資料を作らせたい）

3, 学習計画に沿って調べ, 自分の考えをつくる。

- ①調べ学習を行い, 考えを作る
 - ・見付けた事実を表現物にまとめる
 - ・見付けた事実をもとに考えを作る
- ②中間交流を行い, 考えを見直す

〈さぐる段階の手だて〉

— 〈手だてⅡ〉 —

- [事実認識を確かにする表現活動の工夫]
- 十分な調べ学習をさせるために
 - ・資料の提示
 - ・ガイドの提示
 - 考えを作らせるために
 - ・考えの作り方の話し合い
 - ・表現方法の話し合い (手引きの提示)
 - 考えを見直したり練り上げたりさせるために
 - ・中間交流の手引き (?)
- 事実の確認, 資料の検討, 考えの検討

〈手だてⅡ・中間交流〉

— ①それぞれが見つけた —

事実について話し合う。

- ・他に新しい事実はないか
- ・一つひとつの事実に間違いはないか
- ・事実の説明は十分か
- ・学習問題とつながっていくか
- ②考えについて話し合う
 - ・学習問題の答えになっているか
 - ・見つけた事実から考えられているか
- ③表現物 (方法?) について話し合う。
 - ・分かりやすく表すことができているか
 - ・付け加えたほうがよい事実はないか
- ④個人で考えや, 表現物の見直しを行う

モデル児童を設定し, その考えや表現について話し合っていく

武士 (大名) への政策

農民への政策

諸外国とのつながり

江戸幕府が長く戦のない世の中にすることができたのは, 外様大名を江戸から遠くに配置して参勤交代でたくさんのお金を使わせて力を弱めたり, 武家諸法度のように武士達への厳しい決まりを作って逆らえないようにしていったからだと思います。

江戸幕府が長く戦のない世の中にすることができたのは, 人口の割合が一番多かった農民に対して, 慶安の御触書にあるように厳しい生活のきまりを作ったり, 米の取れ高の4~5割を年貢として納めさせたりするなど, たくさん働くようにし向けていったからだと思います。

江戸幕府が長く戦のない世の中にすることができたのは, キリスト教を禁止することで幕府にとってじゃまな考えが入ってこないようにし, 貿易を長崎の出島だけで行い, その利益を幕府が独り占めすることで力を蓄えていったからだと思います。

4, 全体交流を行い, 学習問題についてまとめる。

武士への政策

- ・大名配置
- ・参勤交代
- ・武家諸法度

農民への政策

- ・慶安の御触書
- ・五人組
- ・高い年貢

外国との関係

- ・キリスト教の禁止
- ・鎖国

武士の力をそぐ

農民の力をそぐ

邪魔な思想を排

〈まとめる段階の手だて〉

— 〈手だてⅡ〉 —

- [本質的認識を表現する活動の工夫]
- 本質的認識をさせるために
 - ・交流の工夫 (低位な考え→高位な考え)
 - ・考えの補助資料を提示させる (補助資料を使った発表をさせる)
 - ・補助資料を教師が準備する
 - ・学習問題とのつながりを常に意識させる言葉かけ
 - ・江戸幕府が悪いというイメージにならないよう,

除する
貿易を独占する

長く安定した世の中だったことを再認識させるための資料の提示

江戸幕府は、厳しいきまりを作り、それを守らせていくことで武士（大名）や農民の力をそいでいった。また、幕府にとって邪魔な思想であるキリスト教を禁止した。このように、幕府にとって都合のよい政策を行うことで世の中を安定させていった。

その反面、長い安定の中で色々な文化や学問が生まれたり、米の取れ高を上げるための工夫が行われたりしていった。

5, 学習のまとめをする。

○ “江戸幕府にもの申す！” を書く

7, 本時 5 / 14 平成19年 9月20日 (木) 5校時

8, 本時目標

○ 予想の交流を行い、こだわりある課題をつくることができる。

9, 本時指導の考え方

本学級の児童は、1学期の社会科の学習で、人物の行いを通してどのような国を作っていきたくったのか、また、どんな時代だったのかについて学習を進めてきた。その中で、それぞれの人物に興味を持ちながら学習に取り組んできた。しかし、予想が今までの既習や経験からのみで考えられていた不十分なものであるとともに、具体的に何を調べていけばよいのかまでは明らかになっていない。

本時は、学習問題「江戸幕府は、なぜ、長い間世の中を安定させることができたのだろうか。」に対する予想を交流し、こだわりある課題をつくる場面である。前時までに立てた予想の曖昧な点を浮き彫りにし、こだわりある課題とつくらせていきたい。そこで、次のような授業仮説を設定し、学習を進めていきたい。

こだわりある課題づくりの工夫

曖昧さが浮き彫りになるような予想を生み出す学習問題を設定し、予想づくりにおいて知識の分析と活用を行い、曖昧さを浮き彫りにする資料や質問の工夫を行えば、児童は自分の考えの曖昧さに気づき、こだわりある課題を作ることができるであろう。

《本時検証の視点》

①設定した学習問題が、曖昧さが浮き彫りになるような予想を生み出すことに有効だったか

・年表と提示した資料をもとに、「武家諸法度・参勤交代・御触書・鎖国」から予想を立てることができた

②予想づくりにおける知識の分析と活用が、曖昧さを浮き彫りになるような予想づくりに有効であったか

・既習や提示された資料をもとに予想を立てている

③曖昧さを浮き彫りにする資料や質問の工夫が、こだわりある課題づくりに有効だったか

・学習問題との繋がりに関する質問をすることができていた

・細かい部分に関する質問をすることができていた

・こだわりある課題をつくることができた

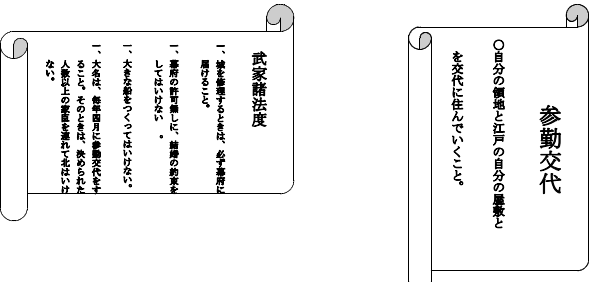

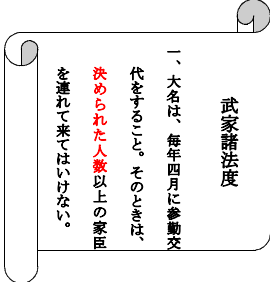

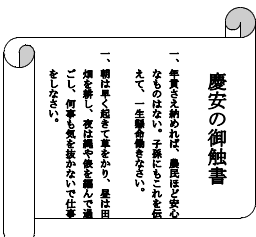
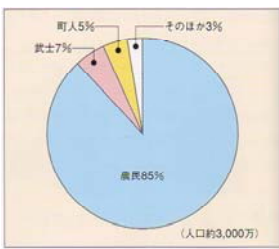
③にある児童の様子は、「曖昧さを予想を生み出す学習問題の設定」「予想づくりにおける知識の分析と活用」がもとになっており、③のような様子が見られれば、①、②についても有効だったと考えられる。

学習問題づくりにおいて、まず、「江戸時代は世の中が活発だった」ということをとらえさせるために、歌舞伎や呉服屋、大阪の港の様子など当時の様子について調べたり、この時代に興った学問について調べたりする学習を行った。また、年表から「島原の乱以降大きな戦が起こっていない」ということを調べる学習を行った。この二つの学習を通して設定された学習問題「江戸幕府は、なぜ長い間戦のない世の中にすることができたのだろうか。」を設定していった。

予想づくりにおいて、まず、「戦のない世の中するには、人々をどうすればよいか」考え、「人々の不満をなくす・人々を逆らえないようにする」という考えを出させた。次に、この考えをもとに、聖徳太子、織田信長、豊臣秀吉の政策を振り返り、「大名（武士）に対して何か行ったのではないか・農民に対して何か行ったのではないか・外国から何か学んだのではないか」という意識を持たせた。そして、年表を提示し、自分の考えにつながりそうな出来事を見つけさせた。次に、武家諸法度・参勤交代・慶安の御触書・人口の割合・鎖国政策とそれぞれのたまかな内容を提示した。この結果、「武家諸法度を制定したから・参勤交代を行ったから・御触書を出したから・鎖国をしたから」という予想を立てていった。

こだわりある課題づくりにおいては、まず、「〇〇をすると、なぜ長く戦のない世の中にするができるのか。」という学習問題とのつながりについての質問を行わせる。次に、「参勤交代の人数はどれくらいなのか・農民はどのくらい年貢を納めていたのか・なぜキリスト教を禁止したのか」等、細かい部分についての質問を行わせる。児童からの質問がでない場合は、教師から質問をする。また、質問の部分がより具体的ななるようにクローズアップした資料や、特にこだわってもらいたい部分についての資料を提示する。このような資料の提示や質問の工夫を行うことで、児童の予想の曖昧さが浮き彫りになり、こだわりある課題をつくることができると考える。

10, 本時展開

学習活動と内容・提示する資料	質問・予想される反応・支援
<p>1, 本時めあてを確認する。</p> <p>めあて</p> <p>調べることが具体的になるように、自分の予想を見直そう。</p> <p>2, それぞれの予想について話し合う。</p> <p>(1) 大名(武士)に対する予想について話し合う。</p> <p>① 学習問題との繋がりについて話し合う。</p>   <p>② 細かい部分についての質問や、曖昧さに気付くような資料の提示を行い、話し合う。</p>   <p>(2) 農民に対する予想について話し合う。</p> <p>① 学習問題との繋がりについて話し合う。</p>  	<p>質問・予想される反応・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○武家諸法度を定めると、なぜ、長い間戦のない世の中にすることができるのか ◎きまりを守らせることで、逆らえないようになるから ○参勤交代を行うと、なぜ、長い間戦のない世の中にすることができるのか ◎1年交代で自分の領地と江戸を行ったり来たりするので、大変になる ●大変になるとは、どんなことが大変になるのか ※下記の質問が児童から出ない場合は、教師が資料を提示し質問を行う。 ●この決まりを破ったらどうなるのか ●なぜ、勝手に結婚をしてはいけないのか ●なぜ、勝手に城を修理したり、新築をしたりしてはいけないのか ●参勤交代には、何人くらいいるのか ※この質問をすることで、経済面からの参勤交代の意味について考えさせていく。 ●参勤交代にいくらくらいかかったのか <p>※鍋島藩の支出の内訳を提示し、参勤交代にかかる費用が、何の財政にとってどのくらいの負担だったのかを意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○御触書を出すと、なぜ、長い間戦のない世の中にすることができるのか ◎米作りに専念させることで、割合が一番多い農民に一揆などを起こさせないようにするから ○どうして米作りに専念させないといけないのか ○この決まりを破ったらどうなるのか <p>※下記の質問が児童から出ない場合は、教師が資</p>

②細かい部分についての質問や、曖昧さに気付くような資料の提示を行い、話し合う。

一、今年も年貢を集める
告

(3) 外国との関係について

①学習問題との繋がりについて話し合う。

キリスト教の参勤交代が厳しい年貢取立でキリスト教取締りに対して起きた様



鎖国令
の外国へ日本の船を寄港させることを禁止する。
○日本人を外国へ呼ぶことを禁止する。
○外国へ出かける日本人は、日本へ帰って来てはいけない。
○キリスト教を布教のようとして入る人を厳しく罰せ、捕らうことを禁ずる。

外国との貿易は、オランダと中国(清)だけを相手とし、長崎だけで行われた。

料を提示し、質問を行う。

●年貢は、どのくらい納めていたのか

※大名の場合と比較させながら納めていた年貢の量に着目させ、「どのくらい年貢を納めていたのか」という疑問を持たせる。

○鎖国をすると、なぜ、長い間戦のない世の中にすることができるのか

◎貿易での利益を幕府が独り占めできるから

○なぜ長崎で貿易を行ったのか

※下記の質問が児童から出ない場合は、教師が資料を提示し、質問を行う。

●なぜ、ここまでして、キリスト教をなくそうとしたのか

※「キリスト教はどんな考えだったのか」という疑問をもたせていく

②細かい部分についての質問や、曖昧さに気付くような資料の提示を行い、話し合う。



3. 自分の予想を見直し、こだわりある課題をつくる。

ぼくは、江戸幕府が長く戦のない世の中にすることができたわけは、参勤交代をさせることで武士(大名)達を抑えたからだと思います。それは、江戸と自分の領地とを行ったり来たりさせたら、逆らえなくなると思うからです。

でも、参勤交代について詳しいことが分からないので、

- ・どのくらいお金がかかったのか
- ・どのくらいの日数がかかったのか
- ・大名達のお金の使い方について調べていきたいと思っています。

私は、江戸幕府が長く戦のない世の中にすることができたのは、慶安の御触書を出して農民たちを抑えたからではないかと思っています。それは、秀吉も農民たちが反抗できないように工夫をしていたし、人口の割合が最も多いからです。

でも、どのくらい年貢を納めていたのか、なぜこのきまりが必要なのか分からないので、

- ・年貢の量
 - ・このきまりを破ったらどうなるのか
- について調べていきたいと思っています。

ぼくは、江戸幕府が長く戦のない世の中にすることができたのは、外国から方法を学んだからだだと思います。それは、聖徳太子も、中国から政治の仕組みなどを学んで世の中を治めていったし、信長は南蛮貿易でもうけたからです。

でも、実際には、キリスト教の禁止や鎖国をしていました。外国とのつながりは、世の中を安定させるために大切なことだと思うので、

- ・キリスト教の考え方
 - ・鎖国をすると幕府にとってどんな影響があったのか
- について調べていきたいです。

7, 本時 10/14 平成19年 10月 4日 (木) 5校時

8, 本時目標

○ 中間交流を通して表現内容や表現方法について話し合い、自分の考えを見直すことができる。

9, 本時指導の考え方

本学級の児童は、今までの社会科の学習で、調べたことを表現物にまとめていたり、学習末に分かったことを表現物にまとめていく学習を経験している。しかし、表現物を見直ししながら自分の考えを整理し直していくところまでは至っていない。

本時は、調べ学習後に作成した自分なりの表現物について、“内容・方法”の両面について検討し、付加・修正をしていく場面である。自分が見つめることができなかつた事実を付け加えさせたり、新しい考え方やより効果的な表現方法について話し合っていくことで、児童一人一人が思考を整理し、自分の考えを見直させていきたい。そこで、次のような授業仮説を設定し、学習を進めていきたい。

考えを表現する活動の工夫

モデルとなる児童を設定し、その児童の表現内容や方法について検討していく話し合いを行えば、自分の表現を見直し、自分の考えを整理していくことができるであろう。

《本時検証の視点》

①モデル児童の表現について検討したことは、児童が自分の表現を見直すことに有効であったか。

児童一人一人にとって、モデル児童の表現内容や方法について検討していくことが、自分に足りなかつた事実を付け加えたり、より効果的な表現方法を使ったりしながら自分の考えを見直していくことに有効であったかについて検証する。

②資料の提示が、児童が自分の表現を見直すことに有効であったか。

児童が気付くことができなかつた事実や、考えを見直すために必要な資料を提示したり、教師からの質問を行ったりすることが、児童が自分の表現を見直し、思考を整理していくために有効であったかを検証する。

本時では、大名に対しての視点で考えを作っている児童を取り上げ中間交流を進めていく。これは、三つのグループを同時に取り上げても、それぞれのグループに対してきめ細かな支援を行うことが十分にできないと考えたからである。

具体的には、モデル児童を選定しその児童の表現について話し合っていく。モデル児童の条件は、下記の通りである。

- ・ 付け加える事実がある
- ・ より効果的な表現方法を考えることができる
- ・ 考えの修正をする余地がある

まず、参勤交代についてのモデル児童の考えを発表させ、“参勤交代にかかる費用・距離”について話し合っていく。費用については、金額の大きさや具体的費用の内訳について話し合っていく。その際、より具体的な内訳についての資料を提示していく。また、金額の大きさについて、児童から佐賀藩の円グラフの資料を提示させるが、分かりやすく伝えるための工夫について考えさせることで、参勤交代にかかる費用の大きさを実感させたい。また、距離については、日本地図を使って説明させることで実感させたい。

次に、“武家諸法度”については、“城の修復には幕府の許可を要すること、幕府の許可無しに結婚できないこと、大きな船をつくってはいけないこと”について学習問題とのつながりを確認したあと、児童の課題である“破った場合の処罰”について話し合っていく。まず、処罰についてモデル児童の発表させ、具体的な数字に関してや、処罰された大名の例について話し合っていく。

最後に、新たな事実として“大名配置”に関する資料を提示し、そこに込められた工夫について話し合っていく。この話し合いを行うことで、参勤交代・武家諸法度についての理解が深まると考える。

このように、モデルを中心とした表現についての話し合いや、必要に応じた教師からの資料の提示や質問を行うことで、児童は、自分の表現を見直し、より考えを確かにしていくことができると考える。

学習活動と内容	支援・提示する資料																																										
<p>1, 本時めあてを確認する。</p> <p>めあて 中間交流を行い、自分の表現物を見直そう。</p> <p>2, モデル児童の考えをもとに話し合う。</p> <p>① “参勤交代”のモデル児童の考えについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 会津藩 <ul style="list-style-type: none"> ・ 260km (高速で福岡～広島) を5～7日間 ・ 費用は1億円 (今なら高速代5500円) ○ 佐賀藩 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1200km (高速で鹿児島～静岡) を30数日 ・ 費用は11億円 (今なら高速で23500円) <p>② 付け加えられる事実がないか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 持ち物について <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄砲、祐未、鎧 ・ 医者や茶坊主 ○ 費用について <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐賀藩の内訳 (参勤交代+江戸での生活=約28億円) <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>たくさんお金を使わせて力を弱くした</p> </div> <p>③ “武家諸法度”のモデル児童の考えについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幕府の許可無しに結婚してはいけないのはなぜか 藩と藩が結びついて強くなることを防ぐ ○ 勝手に城の修理をしてはいけないのはなぜか 城の修理をすることで守るが強くなったり、武器を隠したりするのを防ぐ ○ 大きな船をつくってはいけないのはなぜか 大きな船を持つことで責めてくることを防ぐ <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>強くならないような決まりをつくった</p> </div> <p>④ 武家諸法度を守らなかったらどうなるかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 石高を大きく減らされた 50万石→4万石 (2678億4千万円分の米) ○ 領地を取り上げ小さくし、よそに移す 	<p>○ 具体的な距離を実感させるために、日本地図に書き込ませていく</p> <p>○ “どのくらいの費用だったのか、どんな持ち物があったのか”など理解を深めていくために必要な質問が児童からでなかった場合は、教師から質問をする</p> <p>○ 参勤交代には江戸屋敷での生活費も含まれることを確認し、加賀藩が糸魚川宿で使った費用の内訳と、江戸屋敷での費用の内訳の資料を提示し、色々な出費があったことを捉えさせる。</p> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="font-size: small;"> <caption>加賀藩が糸魚川宿で使った費用の内訳 (宿泊費)</caption> <thead> <tr> <th>人や馬</th> <th>数量</th> <th>かかった金額 (約)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幕士(幕府の武士)</td> <td>50人</td> <td>201万6千円</td> </tr> <tr> <td>主の御士</td> <td>164人</td> <td>999万4千円</td> </tr> <tr> <td>若い侍</td> <td>517人</td> <td>744万4千円</td> </tr> <tr> <td>番物(番頭)人達</td> <td>1343人</td> <td>178万2千円</td> </tr> <tr> <td>馬</td> <td>54匹</td> <td>216万2千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>3443万8千円</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="font-size: small;"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>数量</th> <th>かかった金額 (約)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大名の食事</td> <td></td> <td>157万6千円</td> </tr> <tr> <td>徳金(徳めく)徳金</td> <td>20個</td> <td>24万円</td> </tr> <tr> <td>ろうそく</td> <td>100丁</td> <td>46万4千円</td> </tr> <tr> <td>馬立(馬の立ち)代</td> <td></td> <td>13万4千円</td> </tr> <tr> <td>労働賃</td> <td></td> <td>24万8千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>(588回)</td> <td>294万8千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>両方の合計 (約) 3437万8千円</p> <p>江戸の生活にかかる費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 江戸に勤務する家来には、江戸での分と国元の分とで二重に支払った ・ 大名同士のつきあいが多く、相手に馬鹿にされないように持ち物や服装に金をかけた ・ 将軍が訪問することにそなえて、良い品物をそろえた ・ 江戸の物価が高かった </div> <p>○ 結婚について、城の修理について、船の建造について確認し、タイトル先に考えさせる</p> <p>○ より具体的ななるような質問が児童からでなかった場合は、教師から質問をする</p> <p>○ より中身が具体的になるような順序での指名を行う。</p>	人や馬	数量	かかった金額 (約)	幕士(幕府の武士)	50人	201万6千円	主の御士	164人	999万4千円	若い侍	517人	744万4千円	番物(番頭)人達	1343人	178万2千円	馬	54匹	216万2千円	合計		3443万8千円	品目	数量	かかった金額 (約)	大名の食事		157万6千円	徳金(徳めく)徳金	20個	24万円	ろうそく	100丁	46万4千円	馬立(馬の立ち)代		13万4千円	労働賃		24万8千円	合計	(588回)	294万8千円
人や馬	数量	かかった金額 (約)																																									
幕士(幕府の武士)	50人	201万6千円																																									
主の御士	164人	999万4千円																																									
若い侍	517人	744万4千円																																									
番物(番頭)人達	1343人	178万2千円																																									
馬	54匹	216万2千円																																									
合計		3443万8千円																																									
品目	数量	かかった金額 (約)																																									
大名の食事		157万6千円																																									
徳金(徳めく)徳金	20個	24万円																																									
ろうそく	100丁	46万4千円																																									
馬立(馬の立ち)代		13万4千円																																									
労働賃		24万8千円																																									
合計	(588回)	294万8千円																																									

広島→長野

- 家を取りつぶす（お家断絶）
 - 子どもが跡を継ぐことができない
- ⑤ “大名配置” の資料について話し合う
 - 譜代、親藩大名は江戸の近くで、外様大名は江戸から離れている
 - ・参勤交代でたくさんの費用がかかる
 - 外様大名の近くに譜代、親藩大名がいる
 - ・江戸に攻めて来にくい
 - ・外様大名を監視している



幕府を守る大名配置

3, 自分の考えを見直す。

- 大名配置について考えさせることで、“参勤交代”や“武家諸法度”の意味やそこに込められた幕府の工夫を捉えさせる。



- 見直しのポイントを明確にし考えの付加修正をしやすくさせる。